

入選

おばあちゃんのつえがわり

長野県 岡谷田中小学校 5年

征矢 慶吾

ぼくには、足の不自由なおばあちゃんがあります。おばあちゃんが、なぜ足が不自由になったのかというと、おばあちゃんは今まで、おじいちゃんのかいごを一人でできて、重たいものを一人で持ったり、いろいろと忙しく、毎日休まず動いていたからです。

ぼくは、おばあちゃんが大変そうだなと思っていたけれど、そのときはコロナかで、あまり会えず何もできませんでした。

そのおじいちゃんが、去年亡くなりました。そうしたら、今までがんばりすぎていたせいか、いつも元気に動き回っていたおばあちゃんが、立ったり、歩いたりするときに、「足がいたい」と言うようになりました。おばあちゃんは、

「まだまだ、やらなきゃいけないことがたくさんあるのに、なんでこんなになってしまったの。なさない。」

と、動けないことに弱音をはくようになってしまいました。

そこでぼくは、おばあちゃんのところ遊びに行ったときに、何かできることはないかと考えて、おばあちゃんにかたをかしてあげることにしました。

おばあちゃんがどこにいても、よばれたらぼくはすぐに行って、かたをかしました。ぼくのかたの高さは、おばあちゃんのつえにはちょうど良くて、一人だと大変そうだったのに、ぼくのかたを使うと、おばあちゃんはすっと立ち上がって歩けるので、「助かったよ」とよろこんでくれました。

しかも、楽しく近くで話もできて、ぼくがかたをかしている間は、いたみも忘れて拓さん笑っていました。ぼくも、おばあちゃんがすごくよろこんでくれて、うれしかったです。

ぼくができることは小さいけれど、役に立つことができ、しかも、自分もうれしくなったので、これからも自分ができることで、困っている人を助けてあげたいと思いました。

おばあちゃんは、足の不自由は治っていないけれど、前より元気が出て、今はリハビリをがんばっています。また元気に、前のようにすっと動けるようになりたいそうです。今年は無理だったけれど、ぼくの運動会を見に来たい、と言ってくれています。

元気になって、来てくれたらうれしいです。